



琉球大学 (沖縄県)

青い空・青い海、色彩豊かな自然に囲まれた学習環境

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1) 特色と歴史

琉球大学は沖縄が米軍統治下にあった1950年に創設、1972年の日本への施政権返還に伴って国立大学となりました。日本唯一の亜熱帯島嶼地域という特性を活かし、熱帯地域の海洋、島の自然と文化、言語等の研究・調査が盛んな大学です。総合大学で、以下の7学部、8研究科があります。

学部	大学院
人文社会学部	人文社会科学研究科
国際地域創造学部	地域共創研究科
教育学部	教育学研究科
理学部	理工学研究科
工学部	
農学部	農学研究科
医学部	医学研究科
	保健学研究科
	法務研究科

2) 教員・学生数 (2022年5月1日現在)

教育研究職員数：798名
学部学生数：7,020名
大学院生数：835名
専門職学位課程：91名



② 国際交流の実績 (2022年4月5日現在)

国際交流協定締結大学・機関数：
129大学・機関(41ヶ国・地域)

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生(日研生)の受入れ実績

(留学生数 2022年5月1日現在、
日研生数：2022年10月1日現在)

2022年：留学生数279人(41ヶ国・地域)
日研生2人(2ヶ国)

2021年：留学生数254人(39ヶ国・地域)
日研生1人(1ヶ国)

2020年：留学生数261人(42ヶ国・地域)
日研生1人(1ヶ国)

④ 地域の特徴

日本の最も南に位置する沖縄は、1429年から1879年までの約450年の間、琉球王国という一つの国でした。また、第二次世界大戦後は1972年まではアメリカ軍の施政権下に置かれました。このように、日本本土と異なる歴史的背景を持つ沖縄は、歌や踊りなどの芸能、言語、食文化をはじめさまざまな文化が息づいている地域です。また、温暖な気候と美しい自然に恵まれ、国内有数のリゾート地となっています。空手の発祥地としても有

名です。そんな沖縄で学べば、「日本」全体を一つの文化圏ととらえる型にはまった視点からではなく、多角的に日本をとらえることができるようになるでしょう。

ぜひ沖縄の文化に触れてみてください。



■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

② 研修・コースの特色

- 1) 社会や文化の「比較」に重点を置いた研修を行う中で、日本の社会や文化全般と沖縄独特の地域の社会や文化について理解を深めることができます。
- 2) 研究に必要な日本語の高度な運用力、正確な読解力と文章構成力の養成を行い、日本語学や日本の社会、文化の研究手法や知識を身につけることができます。
- 3) 専門の教員に指導を受けつつ、興味のある分野について知識を深めることができます。同時に、様々な関連科目も学べます。
- 4) 地域の教育機関や文化施設への見学、文化行事への参加など、様々なアプローチで日本および沖縄を学ぶことが可能です。
- 5) 日本人学生と積極的な交流も図り、授業だけでなく大学生活の中で日本を学ぶことができます。日本人学生・他の留学生と交流できる「しばふジャパニーズ」というサークルが活発に活動しています。参加すれば友人の和が広がられます。

③ 受入定員

14名（大使館推薦10名、大学推薦4名）

④ 受講希望者の資格、条件等

日本国以外の大学の学部・に在籍（主に3年次以上）している者。また日本語・日本文化に関する分野を専攻にしている者。日本語力は日本語能力試験N2以上の能力があることが望ましい。

⑤ 達成目標

- 1) 日本語母語話者の大学生並みの文章が書け、口頭発表ができるようになること。
- 2) 日本語を用いて日本語や日本文化に関する研究ができる能力を身につけること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2023年9月下旬 ～ 2024年8月下旬
（在籍期間：2023年10月1日～2024年8月31日）
※9月末の指定日に来日できること。

⑦ 奨学金支給期間

2023年10月 ～ 2024年8月

⑧ 研修・年間スケジュール

- 9月下旬 渡日
10月 オリエンテーション
市場見学
11月 沖縄地域留学生交流会（パーティー）
組踊鑑賞会
12月 グローカルフェスティバル、
茶道体験、新聞社見学
1月 泡盛工場見学、
着物の着付け体験
2月 沖縄県日本語弁論大会
3月 博物館・美術館見学
4月 研究レポート中間発表
5月 放送局見学
6月 平和学習、
平和祈念公園見学
和菓子作り体験
8月 レポートの完成、
研究発表会、
修了式
8月下旬 帰国（2022年は8月24日）



⑨ コースの修了要件

所定の課程（年間448時間以上、必修科目20単位、選択科目8単位取得）の研修を終え、研究レポート等を提出し、指導教員とプログラム実施委員がその成果を認めた者。

【修了研究の内容】

学期中は週に1回、「課題研究Ⅰ・Ⅱ」「課題研究Ⅲ・Ⅳ」の授業の中で指導を受けながら進める。授業内で定期的に進捗状況を口頭発表形式で報告する。研究成果は7～8月頃に開催する最終発表会で口頭発表を行い、レポートにして提出する。

【単位認定】

受講した科目については単位を出す。研修期間内に履修した科目については、成績証明書と履修内容等を記した文書・シラバスを出す。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

全学習を日本語で行い高度な日本語力を習得するだけでなく、多角的に物事を捉え分析する思考力を養い日本を通して自国や多様な世界を見る広い視野を持つ人材の育成を特徴とする。授業は原則として、前期・後期各16週開講する予定。1学期につき、224時間(112コマ)以上履修しなければならない。

2) 研修・コース開設科目

I) 必須科目（1学期 80コマ、160時間）・内容

授業科目名	内 容
課題研究Ⅰ・Ⅲ	図書館の利用法、資料の検索方法を学び、研究レポートを作成する。また研究発表のプレゼンテーション技能の養成を行う。
課題研究Ⅱ・Ⅳ	講義形式ではなく教員の助言を受けながら、自身が設定した研究テーマについて受講生が自発的に研究活動を行いレポート執筆することを目指す。
日本語文章表現Ⅰ・Ⅱ	改まった文の書き方、論文の書き方（アカデミック・ライティング）を学ぶ。

授業科目名	内 容
日本文化特別研究Ⅰ・Ⅱ	伝統文化から現代の社会的な状況や現象を把握したり理解したりするとともに、文化とは何か分析・考察するなど、思考力を養う。学外見学あり。
琉球文化特別研究Ⅰ・Ⅱ	琉球王国時代から現代までの歴史的背景や社会的な変遷等を通して沖縄人とは、沖縄文化とは何かを学ぶ。学外見学あり。

II) 選択科目（1学期 32コマ以上、64時間以上）
・内容

※選択必修科目(1)：

4科目の内各学期最低1科目履修

授業科目名	内 容
国際事情Ⅰ・Ⅱ	主に20世紀後半の世界の出来事を振り返り、これらが現在の状況とどう結びついているのか、学び・考える。
日本文化論Ⅰ・Ⅱ	日本文化論の代表的な『茶の本』『武士道』などを通して日本文化について考察。

※選択必修科目(2)：

4科目の内各学期最低1科目履修

授業科目名	内 容
日本語演習Ⅰ・Ⅱ	実際の日本語の現象を注意深く観察し、日本語学の基礎となる知識を深める。
日本語作品講読Ⅰ・Ⅱ	文学作品の語彙表現、ストーリー展開について理解を深め作品が生まれた社会背景等についても学ぶ。

※その他の選択科目等

他の留学生とともに学べる日本語科目や、沖縄ならではの科目（4）を参照）も受講可能である。

3) 研修科目で地域の見学や地域交流等の参加出来る科目及びその具体的な内容

上記の「日本文化特別研究Ⅰ・Ⅱ」「琉球文化特別研究Ⅰ・Ⅱ」では、学外見学も行う。

【主な見学先】中城城址、平和祈念公園・資料館、新聞社、沖縄県議会議会棟、牧志公設市場、酒工場、テレビ局、埋蔵文化財センター、県立博物館等

【体験・見学】組踊の鑑賞、茶道体験、和菓子作り、ぶくぶく茶体験、着物・ゆかた着付け、書道

【地域交流】学内のグローバルフェスティバル、沖縄県主催の外国人による日本語弁論大会、全国の弁論大会などに積極的に参加すること、小中高校訪問などの機会を通して国際交流を図る。

4) 日本人学生との共修がある科目及び具体的な内容

学生の日本語力や専門分野、修了研究のテーマに応じて、学部授業も受講可能である。それらの授業を選択すれば日本人学生と共修することができる。

【沖縄ならではの科目】

授業科目名	内 容
空手	沖縄発祥の空手の基本を通して体幹、下肢、メンタル強化等の身体機能向上を図る。
うちなーぐちあしび	うちなーぐち（沖縄語）に関する基礎知識を学び、文型練習を通して話したりしながら、沖縄語に親しむ。
現代沖縄地域論	「沖縄」地域の特性や課題についてそれぞれの専門家を講師としてオムニバス形式の授業を行う。
琉球学入門	琉球の歴史、文化、言語、自然環境等の地域特性と多様性について理系・文系の教員が担当するオムニバス形式の授業。

⑪ 指導体制

研修生は国際地域創造学部所属し、下記の指導教員が学業、生活両面にわたって必要に応じて個別に指導にあたる。下記の教員以外にも国際教育センターと国際地域創造学部の適切な専門分野の教員にも研究指導に関して協力をお願いする。

また、日本人学生がチューターとして、一人ずつ付き、学習や生活のサポートをする。

【プログラム実施委員】

金城尚美 国際地域創造学部

教授(日本語教育・教育工学)

金城克哉 国際地域創造学部

教授(言語学・日本語教育)

渡真利聖子 グローバル教育支援機構

講師(日本語学・日本語教育)

■宿 舎

【室内設備】机、椅子、棚

【共同設備】シャワー室、洗濯室、Wi-Fiアクセスポイント、ラウンジ

※ベッドのマットレス、布団、枕等は備え付けではありません。



(写真：新混住棟)

○キャンパス内の学生寮(日本人学生と共用)に入寮する。

○沖縄は、物価が安く生活しやすい。



(写真：新棟)

【留学生宿舎、民間アパートの費用(月額)】

	寄宿料	維持費	光熱費
学生寮	一般寮	料金の詳細については以下国際教育課HPをご参照ください。	
	混住棟		
	新混住棟		
	新棟		
民間アパート		¥35,000程度	使用実績額

<国際教育課HP><https://ges.skr.u-ryukyu.ac.jp/future-students/dormitory/>

■修了生へのフォローアップ

①修了生の主な進路

1) 就職：日系企業(日本国内または母国)、貿易会社経営、母国での通訳やガイド、翻訳者、JETプログラムの国際交流員、外国語教師、大学の教員・研究員、日本でのタレント活動

2) 進学：琉球大学または日本国内の他大学の大学院(研究留学生(国費)として)

②フォローアップの実績

Facebookの日研生同窓会ページ等で連絡を取りあっている。

■問合せ先

<担当部署>

琉球大学国際教育課

住所：〒903-0213

沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

TEL：+81-98-895-8103(直通)

FAX：+81-98-895-8826

E-mail：koshien@acs.u-ryukyu.ac.jp

<ウェブサイト>

琉球大学国際教育センター留学生ユニットHP

日研生ページ：<http://isu.skr.u-ryukyu.ac.jp/future-students/nikkensei/>

琉球大学HP：<http://www.u-ryukyu.ac.jp/>